

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-137	A-154	24-015	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>			
Outcomes of elevated blood alcohol concentrations in elderly patients following a ground level fall: A matched analysis from the national trauma quality program 高齢者の転倒事故における血中アルコール濃度上昇の転帰：全国外傷品質プログラムからのマッチング分析			
<b>執筆者</b>			
Ahmed N, Kuo YH.			
<b>掲載誌</b>			
Alcohol. 2024 Sep;119:83-88. doi: 10.1016/j.alcohol.2023.11.004.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
偶発的転倒、アルコール中毒、高齢者			37967774
<b>要旨</b>			
<p><b>目的：</b>高齢者人口の増加とアルコール消費の増加は、平地での転倒（GLF）を引き起こす可能性がある。本研究はGLFを起こし、血中アルコール濃度（BAC）が上昇していた高齢者患者の院内死亡率、入院期間、退院時の対応について評価することを目的とした。</p> <p><b>方法：</b>本研究は、2011年から2016年の期間にアメリカ外科医会の外傷品質改善プログラム（ACS-TQIP）に登録されたデータを用いた。対象は65歳以上でGLF後に外傷を負い、BAC検査を受けた患者である。BACが陽性（&gt;0.08 g/dL）または陰性（0 mg/dL）の群間で、患者の人口統計、外傷の特徴、併存疾患、転帰を比較した。単変量解析およびマッチング解析を実施し、p値&lt;0.05を統計的有意とした。</p> <p><b>結果：</b>選択基準を満たした20,163人の患者のうち、2,398人（約12%）がBAC陽性であった。単変量解析ではBAC陽性群と陰性群間で年齢と性別に有意差が認められた（<math>p &lt; 0.001</math>）。傾向スコアマッチングにより人口統計学的特徴は均衡化されたが、一部の併存疾患に差が残った。完全一致マッチングでは、人口統計、外傷、併存疾患のバランスが取れた。ペアマッチング解析の結果、院内死亡率（2.1%対2.1%、<math>p = 1</math>）および入院期間の中央値（5 [4-5] 対5 [5-5]、<math>p = 0.307</math>）に有意差は認められなかった。一方、BAC陽性群では、アルコール離脱症候群（AWS）および深部静脈血栓症（DVT）の合併症が高頻度に発生した（9.5%対1.4%、<math>p &lt; 0.001</math>および1.5%対0.5%、<math>p = 0.018</math>）。またBAC陽性群では、追加サービスを必要とせずに自宅退院した患者の割合が高かった（39.6%対36.9%、<math>p = 0.009</math>）。</p> <p><b>結論：</b>GLFを起こし、BAC検査を受けた高齢者患者のうち、約12%がBAC陽性であった。院内死亡率は全体で2.1%であり、BAC陽性群ではAWSおよびDVTの合併症が多く、60%以上の患者が退院時に追加サービスを必要としていた。</p>			